

やましんかわら版は
山形販売店と読者を結ぶ
ミニコミ誌です

NEW

やましんかわら版

山形新聞は9月に創刊140周年を迎えます。

発行部数 9万7,000部

毎月5日発行



かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7
《ホームページ》<http://www.yamashinhanbai.jp/>
《メール》kawaraban@yamashinhanbai.jp
読者お問い合わせ窓口
TEL.023-635-6111 (山形販売内)



ゴールデンスランパとともに、気仙沼の特産品が並ぶ六根浄の店頭。

今月の
いちばん
情報!!

「この酒を造るに、
少しでも故郷への恩返しになれば」と
話す熊谷太郎さん。



お酒に込めた鎮魂の思い 献杯で始まる復興支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災から今年で早くも5年となります。それをひとつの節目に「犠牲者の方々の鎮魂と、生き残った方々の明日への活力へなるならば」と、献杯酒としてあるお酒が造られました。その名は「ゴールデンスランパ」。今月はこのお酒の造り手である山形市の熊谷太郎さん(正酒屋 六根浄店主)から、お話を伺いました。

Q、このお酒を造るにあたってのきっかけは?

▶震災で出身地の宮城県気仙沼市の実家が流された私は、以降復興支援の一環として地元の産業を応援しようと、気仙沼で良い食料品などを見つけては店で販売していました。大きな被害がなかった山形の生活では、震災の記憶は薄らぎそうになりますが、故郷へ赴くたびにまだまだ復興の道のりが厳しいことを実感します。そんな被災地との間のギャップのようなものを感じていたときに、知人からある提案を受けたのです。それは福島県の浪江町で被災し、酒蔵を流され、現在は長井市で酒蔵を営む鈴木酒造店社長の鈴木大介さんと、同じく酒造りに関わりながら実家を津波で流された私で、東北の素材を使った、献杯のためのお酒を造らないかというものでした。

最初は、震災を題材にしたお酒を造ることに對して抵抗がありました。しかし5年をひとつの節目に、少しでも多くの方にもう一度思い返してもらおうきっかけになるのであれば、微力ですが酒造りを通して貢献したいと感じたのです。凄惨な出来事を思い出させるとか、そういった重苦しいも

のではなく、お酒を飲んで明日からまた頑張ろう! という気持ちになれるようなものを造りたいと。本来、お酒はそういう役目を持つものですからね。

Q、なぜ、ビートルズの曲名をお酒の名に?

▶お酒を造る上で、名やラベルはとても大事。鎮魂の献杯酒と思うと、タイトルはなかなか決められませんでした。そんな中、打ち合わせのために鈴木酒造店さんを訪れたとき、事務所の壁に浪江町の祭りの写真が掛かっていたのです。そしてその中に、安波(あんば)祭という文字が見えたのです。本当に偶然でした。気仙沼と同じ名がついた山があるのです。後に知ったのですが、安波様は防災の神様であり、昔から沿岸部に広がった信仰で、津波などから土地を守ってくれとされてきたものでした。鈴木酒造店さんと私をつなぐキーワードとして安波様がいて、そこに二人の名前からSとRを足し、ひらめいたのがゴールデンスランパという名前でした。ご存知のように「Golden Slumbers」はビートルズの曲です。連想からたまたま決まった名前でしたが、その歌詞を読むと被災した多くの方に通じるフレーズがあったことに驚きました。「かつてそこに道があった、故郷へと続く道が」と。

そんな偶然が重なっていくうちに、このお酒を造ることは私たちの使命なのだと感じるようになっていきました。鈴木酒造店さんの酒蔵で、山形の水と秋田の酵母、そして福島酒米を合わせ、それぞれ福島と宮城出身の鈴木さんと私で気持ちを込めて仕込んだお酒は先日ようやく完成

しました。現在、各地の飲食店さん酒販店さんへ向けた発送を待っている状態です。もうしばらくで、皆さんに献杯し、飲んでいただくことができます。

Q、献杯はどこまでできるのですか?

▶東北を中心とした有志の飲食店さん、そして酒販店さんにこのお酒を扱ってもらおう予定です。より多くの方に、このお酒とともに震災を思い返していただいて、そこからまた皆さんに新たなご縁が訪れてくれればと願っています。お酒を酌み交わす語らいの場が生まれることで、犠牲者の方々への鎮魂となる。明日への活力になる献杯酒として、興味を持っていただければ嬉しいですね。



正酒屋 六根浄

住所/山形市平清水153
電話/023-666-8977
営業時間/9:00~17:00
定休日/火曜
<http://rockonjo.com/>

